

私たちにもできることを考えましょう

地球温暖化を防止するために

今年の夏は特に暑かったですね!
昔に比べると誰もが少しずつ暑くなっていることを実感する夏でした。
私たちが日常生活を送るうえで、あまり実感のわかない問題かもしれませんが、地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少、貴重な生物の絶滅など、地球規模の環境問題は深刻さを増しています。
そこで、今回は地球の温暖化の原因と影響などを学び、私たちにもできることを考えませんか。

温暖化が進むと...

陸地がなくなる

(海面水位の上昇)

海面水位は地球全体で二十一世紀末には、最大八十八センチ上昇すると予測されます。低い土地は水没したり、農業や社会生活も大きな影響を受けることとなります。

兵庫県においては、大半の砂浜が消滅するほか、兵庫県南部地域沿岸部においては、海拔一メートル以下の地域が多いことから、海面上昇による悪影響が懸念されます。高潮も心配です。



水害や渇水の恐れ

温暖化が進むと、国内では降雪が雨になったり、融雪が早まったりするため、河川流量が一〜三月には増加、四〜六月には減少します。このため、農業用水、都市用水などの不足の恐れが生じるほか、水害や渇水などの水資源の状況が両極化することが予想されます。

農業生産への影響

二酸化炭素濃度の上昇は、一般に植物の生育にはプラスに働きますが、気温の上昇は地域により異なる影響を与えます。水稲の場合、気温の上昇に伴い、西日本では、現在の品種は生産量が低下することが予想されます。

豪雨や干ばつなどの異常気象の増加

世界の陸地で、雨の降る場所が変わり、雨の降り方や乾燥が極端になると予想されます。最近の世界各地で起こっている洪水や異常高温、干ばつ、砂漠化などは、その兆候だとも言われています。私たちの瀬戸内地域では、雨量が減少し、乾燥化が進む可能性があります。また、台風が発生頻度が増えるといわれています。

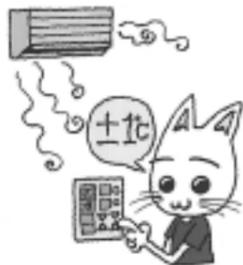


人の健康への影響

夏季に気温が高くなる頻度と期間が増加すると、熱射病などの発生率や死亡率が増加する恐れがあり、また、死亡率の高いマラリアなどの熱帯性の感染症の危険地域に西日本一帯までが入る可能性があります。

省エネルギー

テレビのつけっぱなしを毎日1時間やめる
↓
年間の電気料金を約800円節約



冷暖房を1度ずつ上げ下げする
↓
年間の電気料金・灯油代金をあわせて約1,900円節約



シャワーの出っぱなしを毎日1分間ずつ控える
↓
年間のガス・水道料金を約7,500円節約(4人家族の場合)



エアコンのフィルターや掃除機のフィルターは、こまめに掃除をしましょう

エコドライブ

1日10回の急発進・急加速をやめる
↓
年間のガソリン代を約4,600円節約



マイカーによる移動距離を毎日1km短縮する
↓
年間のガソリン代を約3,800円節約



グリーン購入



日用雑貨や台所用品などは「エコマーク」や「みらいちゃんマーク」などのついた環境に優しい商品を買きましょう



省エネ型のエアコンや冷蔵庫に取り替える
↓
年間電気料金を約30%節減

ごみ減量で温暖化防止



すばらしい環境を子どもたちに残したいものです。
(産業生活課環境担当主幹 大西俊幸)

地球温暖化は、二酸化炭素などの温室効果ガスが増加することにより加速します。二酸化炭素は電気をつくるために、火力発電所で石油や石炭を燃やしたりすると発生します。また、私たちが自動車を走らせたり、不要となった「ごみ」を燃やすときにも大量の二酸化炭素が出ます。
このため、私たちが電気や燃料の使用を減らしたり、ごみを減らしたりすることは、「地球温暖化」防止に大きく役立ちます。
町としては、播磨町の全ての家庭や事業所および工場からのごみ排出量を減らすことにより、焼却するごみを減らし二酸化炭素の発生を抑制したいと考えています。
その中で、家庭ごみ排出量の減量にあたっては、町の広報紙や啓発チラシを通じて、幾度となく、ごみの減量と資源ごみ分別収集徹底の啓発を行ってきましたが、ごみ減量と資源ごみの分別を徹底することは難しい状況です。

今後は、町の指導で、ごみ減量を行うのではなく、ごみを出す人自身が自主的にごみを出すのを控えるような制度(家庭ごみの有料化など)が必要かと思えます。さらに、行政自らも、二酸化炭素削減に取り組む姿勢を示すため、現在の全ての公共施設を対象とした地球温暖化防止率先実行計画を策定中です。